

B-2

山形県漬物協同組合

品評会と販売会で品質向上と販路開拓、意識向上を実現

住 所	〒990-0061 山形県山形市五十鈴1-3-27		
U R L	https://yamagata-tsukemono.com/		
設 立	昭和45年8月	主 な 業 種	漬物の製造業および販売業
組 合 員 数	17人	出 資 金	850千円

■背景・目的

昭和40年(1965年)、県産漬物を全国に普及させることを目的に始まり、コロナ禍を経て16回の開催となる。

山形県の地場野菜を活かした商品作りを行うことや組合員の商品の品質向上・新商品開発・製造技術の向上を目的に、他社から学び切磋琢磨する機会として、4年に一度実施しており、組合員が出品した商品を専門家が評価する品評会と、一般消費者への即売会とを組み合わせ開催している。

■取組みの手法と内容

準備段階では組合員全員で役割分担し、組合事務局では農林水産大臣賞の申請手続き・品評会の開催案内・審査員への依頼など、庶務全般を担当。2月下旬の3日間、山形市内の観光物産施設を会場に審査会・表彰式・即売会を開催している。審査員は大学関係者・カタログギフト会社の開発担当者・土産品販売会社の開発部長等であり、漬物の製造技術と品質管理・マーケティング両面からの審査となっている。

組合員から出品者を募り1社2品以上を出品、審査は1次審査(食風味・商品性)と2次審査(色沢・肉質・食風味・商品性)があり、官能試験と商品性の観点から評価を行い、農林水産大臣賞を始め計57品が表彰される。品評会后に即売会を実施し一律200円で販売後、地元大手スーパー全店で1週間にわたり受賞品祭りが開催された。

コロナ禍までは山形県工業試験場で品評会を実施し、市内中心部の百貨店で販売会を開催していたが、百貨店が閉店したため、令和6年(2024年)は山形市郊外の大規模観光物産施設に会場を移しての実施となった。事業の広報にあたっては、山形市近隣4市に新聞折り込みを行うとともに、山形市内の商業高校がSNSへの動画投稿で協力してくれた。

■成果とその要因

即売会では計画の3,000パックを上回る5,000パックの販売実績を上げることができた。山形県の漬物のPRと全国への販路開拓に貢献しているだけでなく、時代に合わせた新商品開発や品質向上、企業経営への意識向上のきっかけとなっている。60年近く継続されてきた事業であり、これまでの実績を踏まえてよりよい事業にしなければならないという組合員の強い取組み意識が、最大の成果要因と考えられる。



漬物品評会時の組合員集合写真



漬物品評会はメディアの取材も入り、販売会や組合のPRに繋がった



組合商品の販売会は大盛況だった

販路開拓に取り組んだ事例



品評会と販売会を組み合わせることで、商品の品質向上・新商品開発とテストマーケティング・ブランドの維持を達成。60年近く継続してきた組合員の意識が成功要因。